



次へ向かうために



2月17日の給食では、リオデジャネイロのカーニバルに合わせて「フェイジョアーダ」が出ました。味はいかがでしたか。リオデジャネイロのカーニバルは世界的に有名なお祭りで、もともと四旬節という節制の期間に入る前に思い切り楽しもうという考えから生まれたといわれています。現在ではこうした節制の習慣は薄れていますが、直前に行われるお祭りは形を変えながら今も受け継がれています。

このように、「一区切りつける」という考え方は、次に進むために大切な意味を持っています。ただ終わるのではなく、自分を振り返り、「何ができたのか」「何が課題なのか」を確かめることで、次の一歩が見えてきます。今の時期はまさにそのタイミングです。そして、その区切りとして、自分の力を確かめる場が、これから迎える学期末考査です。ここでの取り組みが次への力になっていきます。

～体育 大縄跳び～

現在、体育ではダンスとともに大縄に挑戦していますね。最初はなかなか回数が伸びませんでした。今では20回を超えることもあり着実に成長が見えます。一人一人のタイミングを合わせることで、声をかけ合うこと、失敗してもすぐに切り替えること——。その積み重ねが少しずつ結果につながってきました。思うようにいかない場面があっても、そこであきらめずに続けている姿がとても印象的です。この調子でさらに記録を伸ばしていきましょう。

📖職場体験（町田市立中央図書館）を終えて📖

2年生は、中央図書館での職場体験を無事に終わりました。冬休みから職場調べやマナー講習の受講など様々な準備を整えてきました（1年生もマナー講習には参加し、貴重な機会となりました）。そのうえで、事前訪問および3日間の実習に臨み、お礼状の作成や発表まで一連の学習をやり遂げました。図書館の仕事は本を貸すことだけではありません。利用者への対応や環境を整えることなど、多くの役割があることを体験を通して実感できたのではないのでしょうか。今回の職場体験はゴールではなく、将来へ向かう一歩です。この経験をこれからの学校生活や進路選択につなげていきましょう。



📖学期末考査に向けて📖

いよいよ今年度最後の考査ですね。この一年間、本当によく頑張ってきました。ここで大切にしてほしいのは、「区切りをつけること」です。これまでの学びを振り返りながら、「ここはもう一度やっておこうかな」、「これだけはできるようにしておきたいな」と、自分なりに少しずつ整理していきましょう。例えば、間違えた問題を見直すことからでも大丈夫です。最後の3日間は、自分なりに「やり切った」と思える時間にしてみてください。完璧でなくても大丈夫です。大切なのはきちんと向き合ったかどうかです。当日、「これだけやった」と思える状態で迎えられるよう先生たちは皆さんを応援しています。